

2011年度 第2回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2011年7月12日（火） 午後6時30分～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 4階第3会議室
- 出席委員：五十嵐強、伊藤隆志、稲葉孝之、内田日出子、小野田恵、佐野美野里、田中紀子、野口しほり、山内淑子<以上9名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：青崎公博<以上1名、敬称略>
- 事務局：望月利将（事務局長）丸木敦（地域福祉課長）長山清美（コーディネーター）篠原保之（係長）

資料の確認を行い、議事に入る。

1. 報 告 事 項

(1). 東日本復興支援ボランティアの募集について

事務局：現地では仮設住宅の設営も進み、地域によっては災害ボランティアセンターが閉鎖するところも出てきている。西東京市社会福祉協議会では、東北の被災地で現地の現状を調査し、岩手県の陸前高田市にボランティアニーズがあること、社協職員6名が被災、臨時職員で運営している状態であることなどから支援を計画し、市民ボランティアの募集を始めた。息の長い支援が必要になる。移動に片道8時間ほどかかるため、月曜～土曜までで募集を始めたが、1期ごとの期間が長いこと、暑くなってきたことで活動時間にも制限があることから、内容を再検討している。現在、募集をかけているが、応募者は少ない状態。継続的な支援を考え現地に1名職員を常駐させている。今後、状況は変わると思うが、現地から戻った職員から報告をしたい。

事務局：6月中旬から事前調査を行った。他の候補地も見たうえで陸前高田市を選択した。交通手段が限られている、宿泊場所がない、食事をするところがない、などでボランティアがなかなか入らないところになっている。復興も滞っている。6月中旬と今回と状況が変わっていない。片道8時間ほどかかり内陸から入らないといけない。土・日は全国から500名のボランティアが来るが、平日は100名を切る状態。場所がら活動も短時間で帰ってしまう状態。宿泊先も遠野や大船渡は近いがホテルは一杯の状態、住田町の公民館を宿泊先として借りる予定。体育館のような場所で雑魚寝の状態。重機が入る前に丁寧にがれきを取り除いていく段階。その中から位牌やアルバムなどを回収している。

委員長：それぞれの社協での動きは、どのようになっているか。

事務局：被災地には西東京市の姉妹都市・友好都市などが無いため、単独で支援しているが、他市は姉妹都市などを支援している。都内では5社協くらいが支援をしている。

(2). 西東京ボランティア・市民活動センター事業報告について

事務局：5月～7月の報告。6月10日（金）に北多摩北部ブロックボランティアコーディネータ

一研修を実施。西東京は施設担当者だけでなく、「夏！体験ボランティア西東京2011」でボランティアを受け入れているボランティア団体にも参加の声をかけている。西東京からは14名申込み(全体49名)。一日を通しての研修、参加費無料で実施した。校長会・園長会は「夏体験ボランティア西東京2011」のお願いで伺った。6月28日には東日本大震災での現地派遣職員の報告会、研修会を実施。報告と災害時対応についての研修を実施。都立高校の奉仕授業の講演に出かける。

コーディネート報告。新規の登録者は載せたが、4月の登録継続調査を行った際に、登録を中止した方がいたため、新規登録の方もいたが総数は減員になっている。一般373名、特技103名。保険加入者は登録ボランティア以外に被災地へ行く方の保険加入が多い。

ボランティア相談は被災者支援のための物品販売についての相談があった。

今後の予定では、「夏！体験ボランティア西東京2011」の参加者説明会を予定。7月21日から体験が始まる。9月以降は西東京市社会福祉協議会と学生の実習生を受け入れる。

委員：「夏体験ボランティア西東京2011」の応募人数の現在の状況を教えてほしい。

事務局：本日まで、小学生10名、中学生53名となっている。保育園での活動希望が多くなっている。

以上、質疑応答を行い、報告を終える。

2. 審 議 事 項

(1). 2011年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の取り扱いについて

事務局：昨年度までの会議録の扱いについて。会議終了後の流れとして、ただちに会議録(未定稿)を作成し、運営委員に送付。次回運営委員会で未定稿の確認を行い、了承をいただき確定稿としてHPで公開している。内容については、委員の発言は「委員長」「委員」として表記している。個人名は表記せず、発言の内容は要約表記としている。

委員長：会議録の取り扱いは運営委員会で審議事項になっている。内容は要約の方が分かりやすいと思う。質問があればお願いしたい。

委員：個人名は表記しないとのことだが、会議出席者については表記するのか。

事務局：その点もご意見をいただきたい。

委員：事前に運営委員に配布するということは、発言についての訂正などは委員会の前に事務局に伝えるのか。

事務局：委員会の場で意見をいただくこともあるが、事前に修正箇所があればお聞きして、委員会の場でいただいたご意見を事務局からお伝えする。

委員：審議事項と協議事項の違いについて教えてほしい。また、未定稿を審議し確定稿にするとのことだが、具体的に何をしたら良いのか。

事務局：前回の会議録について、内容をご承認いただき公開となる。運営委員会の承認を得るものについては審議事項としている。未定稿については、発言内容を文字にしている

ので、ニュアンスが違ってないかを確認したい。

委員：審議事項としての承認とは、どのように考えているのか。

事務局：運営委員会の承認を得るものとそうでないものを分けている。

委員長：話しあう事項について、まずは協議を行い、修正意見を入れて、最終的に審議していくと考えれば良いのではないか。これまでは、会議の回数も少なくその様に進められないこともあったが、順序を間違えないようにして取り扱ってあげれば良いのではないか。運営委員の名前については第1回目に表記しても良いかと思う。

委員会の参加者名は表記することを確認する。

(2). 2011 年度第 1 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）について

事務局：第1回目の未定稿を審議いただきたい。委員長・副委員長の選出についてはお名前を出しているが、構わないか。

委員長：良いと思う。ボリュームは毎回この程度なのか。

事務局：会議の内容によるが、4～6 ページになっている。

事務局から、資料の修正箇所を説明する。

委員長：ご質問が無ければ承認いただきたい。

承認をいただき、確定稿とする。

3. 協 議 事 項

(1). 2011 年度西東京ボランティア・市民活動センターの現状と課題点について

委員長：次に協議事項「西東京ボランティア・市民活動センターの現状と課題」について説明をお願いします。

いする。

事務局：資料について説明する。まず登録制について。特技登録は、得意分野の活動に限って行う方になっている。一般登録の方も、活動範囲を限っている方がいる。高齢者のみ、障がい者のみなど登録の際に、「活動できる範囲で」と話している中で、中には年間に数日のみの活動という方もいる。新たな登録者を増やす機会が少ない現状がある。「夏体験ボランティア」や「はじめて講座」などに限られている。時間に制約があるため、外に出ての働きかけができていない。

コーディネートは電話やFAX、メールでのご紹介になっている。現場に出る機会は少なく回数が限られる。また、活動後の情報が集められていない。依頼に対して、すべてのケースでボランティアを紹介しきれていない。

講座について。楽しいボランティア活動を取り入れた生活の提案として「はじめて講座」などを開いているが、参加人数が多くない。夏体験ボランティア西東京も毎年行っているが、企画内容は同じようなものになっている。参加者からのアンケートは取

っているが、受入施設の声は集めきれていない。

コーディネーター研修は、施設のボランティア担当者を対象に行っている。ボランティアがより良い環境で活動ができるようにとすすめている研修。担当者の方が自らボランティアと活動の交渉を行ってもらえるように自立できていけば望ましいと考えている。

ボランティアのつどいについては、現在はより多くの市民の方にボランティア活動に触れてもらうことを目的にイベント色の強いものになっている。多くの人を集めることを意識して実施している。

広報では、発行媒体の周知について考えていかななくてはならない。メールニュースはボリュームの関係で依頼や案内を7~8件載せるといっばいになってしまう。携帯で見ることのできるメールニュースの取り組みが課題。ホームページは更新が少ない。事業があるときなどは更新を行うが、毎日の更新ができていないため新鮮さに欠けるとの声がある。

全体では、毎日の業務の中で行う内容を精査すること、ボランティア・市民活動センター自体の周知を行うことが必要と思われる。

保育に関する依頼が集中してしまったり、精神科に通われている方の活動に関する相談などが多くなっている。なかなか活動に結び付かず、都内のボランティアセンターでは共通の課題になっている。

委員長：前回の委員会に現状についての報告が求められての今回の資料になっている。現在困っていることや課題について具体的に示してもらった。

委員：ホームページの更新は大変。ブログを使ってみたらどうか。日々の活動なども紹介すると西東京ボランティア・市民活動センターの周知にもなるし、外からも携帯で更新できるので良いのではないか。

チラシの効果を量れていないと報告があったが、チラシ自体にあまり効果は感じていない。

委員長：情報は発信する側よりも受ける側が追っていく時代。考え方は変わってきている。

委員：自分の活動グループでもホームページが活用されている。ブログで無料活動体験などを紹介するとすぐに申込みが来る状況。チラシも併せて作成するが、若い人向けには、ブログを有効に使った方が良いかもしれない。しかし、あまり砕けた表現を行うと批判もあるので気をつけないといけない。しかし、それだけ多くの人が見ていると捉えている人もいる。

委員：登録者数が約500名いるが、多いと感じているのか少ないと感じているのか。また、登録の方法や内容に問題があると感じているのか。

事務局：多い、少ないでは考えていなかった。保育に関する依頼が多い時期に活動者が少ないとボランティア数が少ないと感じることもある。

委員：依頼に対して応えきれていないと感じているようだが、ニーズに対する対応は現場ではどのように感じているのか。

事務局：求められる人数が紹介しきれないことはある。

委員：ボランティアは自主性・無償性・社会性・先見性などがうたわれているが、ボランティアの主体性については、どのように対応しているのか。また、ボランティアは当てにならないなどと見られる事もある。求めるものに対して、満たせるものになっているのかどうかについてはどう感じているか。

事務局：ボランティア・市民活動センターにお越しの方には、何かしら活動を紹介するようにしている。気持ちが熱いうちに活動をご紹介するように心がけている。中には、1回

の活動で大変さを訴えて活動を控えてしまう方はいる。

委員：課題と現状を考えると、求められるニーズがどのように変わってきたかを分析しないと難しい。課題が捉えきれていないのかもしれない。

委員長：ニーズは2つある。ボランティアをやりたいニーズとやってほしいというニーズをマッチングさせるのだが、ボランティア・市民活動センターにかかってくる電話そのものをニーズとして捉え、傾向を見ていかななくてはいけないと思う。

事務局：保育の依頼が多いと報告したが、リピートの方だけではなく、他団体からボランティアの利用例を聞いて依頼をされる方が増えてきている。それ自体はボランティア利用に関する情報が広まってきているともいえるが、急に多くなると対応しきれなくなっている。

委員：ボランティアが見つからないと報告するときに、登録ボランティア以外に大学のボランティアサークルを紹介したりすることはないのか。

事務局：そのようなケースもある。子育てサークル間で相互の協力ができてくると良いと思っている。

委員：登録ボランティアは500名と多いように感じるが、フリーで活動できるボランティアが少ないと思う。依頼を受ける時に伝えているが、依頼する側のマナーも守られていないことが多々見られる。子どもの水分補給やおむつ交換、泣く子どものことなど、この状況では活動ができないというケースもあり、活動をきっかけに活動を止めてしまう方もいると思う。

委員：ボランティアの頼む際のマナーがなっていないことが多くなっていると思う。ボランティアを依頼する側の研修も行った方が良いと思う。おむつ交換がボランティア活動なのか、どこまでがボランティアとして頼むことができるのかを共有した方が良い。

委員：以前、ボランティアの活動報告書がないのか聞いたことがあったが、活動者も依頼者もどんなことがあったか、また、どんなことで困ったかは伝える手段として報告してもらっても良いと思う。

委員：ボランティアは困ったことがあってもわざわざボランティア・市民活動センターに来て訴える勇気は無いと思う。報告書は良いかもしれない。

事務局：後から伺ってトラブルがあったことを知らされることはあった。また、感覚の違いがあることも感じている。

委員：傾聴に関する講座は実施しているが、保育に関する講座があっても良いと思う。昔、子育てを行っていた方も、保育に関する常識も違ってきている。その辺りも踏まえて講座を行っても良いと思う。

委員：ボランティアはあくまでボランティアと考えているが、どこまでがボランティアの仕事なのかを共有しておけば良いと思う。そこを確認するためにも報告書はもらっても良いのではないかな。

委員：同じボランティアで入っても、活動に関するノウハウを持っている方とそうでない方がいる。活動内容も「そこまでやるの」という活動者もいる。

委員：ファミリー・サポート・センターで活動している方は、有償活動で、ある程度のことはやっていると思うが、ボランティアを頼む時は同じことを求めるのはどうかと考えている。

委員：保育だけではなく、どの分野でも活動したことを話しあえる機会がもっとあると良いと思う。

事務局：学校での障がい児のサポートのボランティアを行っている人がいるが、先生によって求められる内容が違っていることはある。現場では困るケースになっている。本来ボ

ランティアは楽しく活動できるようにすすめている。ある団体では、質の高いボランティアを求めて指導していたが、活動者が減ってしまい、楽しく活動できていなかったと気づいて方針を変えたと話していた。また、依頼の際に「〇〇名来てもらわないと困るんです」という依頼が届くことがある。職員派遣のような考え方で依頼があることもある。ボランティアをする人と依頼者が、双方が幸せになるように考えてもらいたい。

事務局：西東京市と同じような人口の市と比べると400名という登録は少ない。話を伺って、そもそもボランティア・市民活動センターの機能を見直さなくてはいけないのかと感じた。本来、ボランティア・市民活動センターとはコーディネートが主な仕事にしていて、コーディネートとマッチングは違うといわれている。ただニーズとニーズをくっつければ良いという話ではなく、その先に依頼した側と活動した側がきちんと関係性を結んで継続していけるようにすることもボランティア・市民活動センターの仕事。それを含めてコーディネーションと言われている。今のボランティア・市民活動センターは、そこまで至っていないと思う。他の資源を紹介することもコーディネートの一つだと思う。その辺りもできていないと思う。依頼した側に考え方を考えてもらうのはボランティア・市民活動センターだけの仕事ではなく、ボランティア自身にもそのことは期待したいと思うし、ボランティアに伝えていかなくてはならないと感じている。

委員：依頼する側として当然と思われることでも、理解されていないこともある。

事務局：ボランティアと依頼者の関係性ができていないため、ずっとボランティア・市民活動センターに頼むようになっていくと、ボランティア・市民活動センターはパンクしてしまう。依頼者にはボランティアとの関係性をつくるようにしてもらいたい。ボランティア・市民活動センターの役割を見直す時期かもしれない

委員：ボランティアからすると、ボランティア・市民活動センターを通してもらわないとつらいこともあると思う。個人的に連絡が来ると断りづらいことはある。

委員：同じ方に来ていただけると子どもも慣れて助かることもある。関係性をつくるとうまくいくことはあると思う。

事務局：ボランティアによっては断りづらいため嫌だという方もいると思う。

委員：ここでしばらく話していて、いろいろな意見が出た。これをそのまま終わらせてしまうから次に進まない。ボランティア・市民活動センターでやりきれないのならどうすればよいかを考えなければいけない。知恵を絞りだし前に進まなくてはいけない。ボランティア・市民活動センターの機能を見直すという話が出たが、マッチングとコーディネートの違いなど、ハローワーク以上のことをやっていると思う。まずは1つの成功例をつくらなくてはならない。それが次につながる。成功例を持ち寄って地道に考えていけば良いのではないか。

委員長：ボランティア・市民活動センターの機能の話が出たが、今までやってきたことを大きく変えるのではない。ウルトラCがあるわけではないので、時間はかかるが取り組んでいかなくてはならない。今の体制を考え優先的にやっていくことを出していく。そして成功したことを広く示していくことが大切だと思う。活動依頼についても、ボランティア・市民活動センターを通すか通さないかは、ボランティアにとっては大きな問題でもある。紹介したか、しないかだけで終わらずに、生活の豊かさが見えてくるかどうか、機能を転換する時期に来ていると言える。この問題は継続して話していきたいと思う。

事務局：依頼の中には専門的な能力を求められるケースもある。

委員長：ニーズが高く、専門性が高いものは、果たしてボランティアの活動なのかは考えなくてはいけない。

委員：対象者によっては、ある程度の情報は必要になる。ボランティア活動をしていくにはボランティア・市民活動センターから多くの情報をもらって、活動していきたいと思う。

委員長：今後も継続して話をしていきたい。まとめたものを示してほしい。

以上を持って、協議を終了する。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

■日時：9月13日（火）18時30分～20時30分

■会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2011年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会を終了し散会する。